



収穫の秋“稲刈り”

2023年10月3日

5月の終わり（30日）に田植えをした田んぼに、今日、2年生の地域探究コースの皆さんは稲刈りに行ってきました。（田植え：5月30日校長ブログ）

今回も稲刈りの手ほどきを指導くださったのは、本校PTA会長の佐々木さん方、一般社団法人信州あなん（通称「信州アトム」）の皆さんです。（いつもありがとうございます。）手順を説明していただき、早速“稲刈り”を始めました。

土手には初秋の花「ツルゴ」



刈っているとイナゴやカマキリなどの虫たちや、カエルやカナヘビといった小動物が現れ、苦手な生徒たちは大騒ぎしながらの稲刈りでした。

刈り終わると稲架掛け（はざかけ）です。



カラッとした秋の日差しに2週間程度天日干しをして乾燥させることで、お米の中のアミノ酸や糖の含有量が増し、美味しいお米となります。IMG_1817

生徒の皆さんのほとんどがお米づくりは初めてだったと思います。農家さんの苦労のほんのわずかですが体験をし、農業への理解や食べ物への感謝の気持ちが増したのではないかと思います。



みなさん稲刈り、お疲れ様でした。

マタタビの実

2023年10月26日

6月のブログ（6月9日 阿南の四季の植物『マタタビ』）でマタタビの花を紹介しましたが、今回はマタタビの実です。実の長さは3～4cm程度です。夏は緑色でしたが、秋となり黄色に熟してきました。



マタタビの実には、ドングリ型とカボチャ型とがあります。写真の実はご覧のとおりドングリ型ですね。カボチャ型の実は、花の開花時

期にアブラムシ（マタタビアブラムシ）等が寄生し正常に成長せず「コブ」状になります。それを「むしこぶ」とか



「虫瘻果（ちゅうえいか）」と呼んでいます。



ドングリ型は生食でき、食べてみるとカキ（柿）のような甘みに加え、中の小さなタネを噛むと爽やかな酸味が広がり、キウイフルーツのようななかなか

美味しい実なんです。

それもそのはず、マタタビとキウイは同じマタタビ属マタタビ科の（他にもサルナシも）同じ仲間です。実のサイズ・形状こそ異なりますが、実の味は誰もが知っている



キウイフルーツです。（実の断面はまさに🍌）

カボチャ型の実は見た目は悪いのですが、昔から薬用（漢方の生薬：木天蓼（もくてんりょう））に利用されてきました。生で食べるよりも乾燥させてすり潰したり、塩漬けにして食べてきたようです。マタタビには疲労回復の効果があり、マタタビ茶やマタタビ酒としても古くから飲用されてます。調べてみると、漢方の木天蓼は疲れや風邪を引いた時の栄養ドリンク等にも入っているようです。

ネコがマタタビにじゃれつく行為「ネコにマタタ



ビ」ですが、最近その行動が解明されたようです。岩手大学や名古屋大学などの日英の研究グループがネコの謎の行動に挑み、「蚊を避けるため」という結論を導き出しました。マタタビの成分の中で、蚊の嫌う成分「ネペタラクトール」にネコ科動物が強く（マタタビ）反応を示したそうです。

詳細を知りたい方は岩手大学農学部の研究紹介一覧「ネコのマタタビ反応の謎を解く 第2弾！ ～完全肉食のネコがマタタビを舐めたり噛んだりする理由が明らかに～」をご覧ください。

身近な秋「クサギ」の実

2023年11月6日

11月に入り秋も深まって来ましたが、11月とは思えぬほどの暖かい（暑い）日が続いています。そのせいか、山肌の木々の紅葉も、今年はまだ、ややおとなしめな彩りと感じます。

阿南高校周辺をちょっとまわってみると、真っ赤なクサギの実が目映りました。

真っ赤と言いましたが、赤い部分はガク片、中の黒い（青い）部分がクサギの実です。クサギの名の



由来は、枝葉をちぎると独特の匂い（臭気）が漂い、まさに“臭い木”＝クサギなんです。ただ、実際にちぎって嗅いでみると、言われるほどひどい匂いでもありません。（人によっては嫌がれる匂いでもあるので、ご注意ください。）

クサギは特に珍しい植物でもなく、ごく平凡なありふれた落葉小高木です。葉は5～20cmのハート型に近い三角形で、夏には（うすピンクのガクの）白い花を咲かせます。

（白い花の写真は8月に撮影）



夏、花は甘い香りを漂わせ、カラスアゲハが蜜を吸いに集まってきます。

秋になると一点、色鮮やかな実が、本当綺麗ですね。実をよく見ると、青っぽく見えます。実は草木染めの“青い染料”となるそうです。（クサギで草木染め。）青い染料は珍しいようで、名前は不名誉な可哀想な名が付いてますが、秋の彩りといい、草木染めの染料といい、もっと目立っていい植物ですね。

お茶の花

2023年11月15日

皆さんはお茶の花をご存じでしょうか？

秋も深まるこの季節、白く可愛らしい花が、やや控えめにうつむき加減で咲いています。

お茶は「チャ」とか「チャノキ」と呼ばれ、ツバキ科の仲間、ご覧のとおり、サイズこそだいぶ小さめ（約3cm）ですがツバキ（椿）やサザンカの花によく似た花が咲きます。開花時期は結構長く、飯田下伊那では10月から12月まで見ることができます。

お茶を栽培している茶畑では、茶葉に栄養が十分行き渡るように、花は摘み取ってしまうそうです。昔より温暖な飯田



下伊那では自家消費にお茶を栽培もしてましたが、庭の垣根としてもお茶が植っており、晩秋、垣根の茶（チャ）の白い花が咲いているところが随所で見られます。

阿南高校周辺でもお茶を栽培している農家さんもいらっしゃいますが、さらに南でも茶畑が見られます。天龍村の中井侍銘茶や遠山郷南信濃の赤石銘茶が有名です。（2023年6月23日校長ブログ「進路講話」に行ってきた。）参照

ところで、地図記号で使われているお茶畑の印、ご存



じでしょうか？

「∴」がお茶畑を表します。・が三つ

の由来は、お茶の実なんです。お茶の実を割ると三種入っている姿を形どったと言われてます。